



母校、創立百二十周年を祝う

東京から渡辺会長が参列

平成五年十月二十八日、鳥取西高は創立百二十周年を迎えました。明治六年、「第四学区第十五番聚則中学」として産声をあげた本校は、県立鳥取一中、鳥取高女などの伝統を受け継ぎ、長い歴史を培ってきたわけですが、この節目の年に当たり、去る十月二十六日、新装なったばかりの県民文化会館で盛大に記念式典が催され、東京から関東鳥城会会長・渡辺誠毅氏（一中44回）に列席していただきました。

式典には知事代理として沖正副知事（一中58回）をはじめ各界代表、同窓会役員、各期代表幹事の方々約二百人、職員、生徒約千七百人が参列しました。渡辺関東鳥城会会長とともに、近畿同窓会長・澤藤氏（一中52回）もかけつけてくださいました。

席上、同窓会役員を二十年以上も勤めていただいている横山善美恵さんら三名、PTA関係五名、退職された校長三名の十一人に感謝状と記念品をお贈りしました。

式典後、記念講演として大阪カス・エネルギー文化研究所長・倉光弘己氏（西

出し、ご購入いただいた皆様にお送りする予定にしていますが、これを教訓に、次回の発行では万全を期したいと思っております。

菅券人並けは願調

お蔭様で、図書館整備事業のための募金活動は順調です。一中、高女、西高の各期代表幹事に集まっていたとき、各期ごとに募金活動をしていただくようお願いいたしました。今年は、野球部が活躍し、春夏連続の甲子園出場を果たしましたので、その寄付と合わせてトリプルパンチで皆様には大変な負担をお願いすることとなりました。目下、約千八百万円集まっております。各期ごとに集計しているところであります。ご協力に厚く御礼申し上げます。

その他、来年度にかけて体育館や校舎などの内・外

鳥取高女、鳥取商業高等学校も統合され、「鳥取西高等学校」と改称されて、現在に至っている。

この間、卒業生は四万四千人を超え、「済々多士を出しつゝ」連絡ここに百余年（旧鳥取一中校）の歴史を刻んできたわけである。

鳥取西高百二十年史年表などによった

装工事が進められています。何しろ文化財指定地域内に存在する学校であるため、制限が厳しくて新しいもの

は造れない状況にあります。が、見違えるような西高に生まれ変わるのではないかと期待しています。ご帰鳥

の際には是非、お立ち寄りいただきたいと思えます。（鳥取西高総務部担当 船木 弘巳・西高10回）

記念の年、春夏連続出場を達成

—— 甲子園の全国高校野球大会 ——

文武併進の西高野球部

き今年、春、夏の甲子園大会へ出場できる幸運に恵まれましたが、「文武両道」を掲げる学校が多い中で、これがいかに厳しく、難しいことであるか、しみじみと知らされました。

これらも、早朝より鳥取からの地元応援団や、遠く離れていても、いつも変わらぬご支援、ご声援をいただいている関東鳥城会をはじめとする同窓会の皆様のお陰であり、この機会に厚くお礼を申し上げます。次第です。厳しさや情熱は、そのま

五回の記念大会であり、新大会歌「今ありて」のメロディーに乗って入場行進、森山真弓文部大臣による女性初の始球式が始まりました。また、大会中、寒暖の差が激しく、日差しで温まったグラウンドに雪まじりの雨が降り、それが細かな霧となる「蒸発霧」という珍しい現象が起こるなど、話題豊富な大会となりました。

西高野球部が目指す「基本に徹した守りの野球」にはまだまだほど遠いものがありますが、また来春の選抜大会出場も期待されることとなりました。

鳥取西高の源流は、その学風、教育精神はもろろん文武併進でありました。明治二十九年に創部された野球部もこの伝統を受け継ぎ、今日に至っています。

甲子園から帰った生徒たちは、春の雪辱を期すため、自分に厳しく、いつも情熱を失わず、もくもくと練習を重ねました。その結果、みごと夏の鳥取県大会を制し、春夏連続の甲子園出場を重ねました。その結果、しかも、ともに初戦突破という所期の目的を達成できました。

海鳴りのような拍手と歓声の中で、グラウンド全体に流れた校歌を聞いた、あの感激が、今も鮮やかによみがえってきます。

鳥取西高百二十年史年表などによった

旧鳥取一中時代から幾多の先輩が築いた立派な伝統を、さらに発展させること

は、学校ならびに野球部にとって、現在の状況下では容易なことではありません。しかし、困難に立ち向かう

鳥取西高百二十年史年表などによった

「伝統的な目標である文武併進」を実現したい。それこそが、わが鳥取西高の限

に思っています。（鳥取西高野球部前部長 坂尾 嘉彦・西高7回）

豆知識・学校の沿革

▼明治六（一八七三）年十月二十八日、池田藩校・尚徳館の伝統を受け

「鳥取県尋常中学校」「県立第一中学校」「県立鳥取中学校」等々、なんども名

▼その後、「鳥取中学」

現在の旧城内に校舎が移ったのは「鳥取県尋常中学校」時代の明治二十二年。

▼この間、卒業生は四

万四千人を超え、「済々多士を出しつゝ」連絡こ

初代学長・蓮沼友治。

二）二年六月のことだった。鳥取第三高等学校（旧県立

総会開き懇親深める

平成五年度 鳥城会

鳥城会の平成五年年度総会は十一月十二日夕、東京・神田の学士会館に約八十人の会員や県立高女同窓会・聖紅会代表も参加して開か

「二敗一分け」とは残念

対倉吉・田巻戦 定期化へ

鳥城会と鴨水会(倉吉中)の懇親大会が去る七月十日、定期開催大会が去る七月十日、東京・市ヶ谷の日本棋院会館「瀧風の間」で開催されました。

鳥城会からは八名が参加し、鴨水会からは八名が参加し、団体対抗戦をおこなった結果、大熱戦のすえ、十勝十敗一分けで、両者引き分けに終わりました。

この大会は、過去二回定期的に開催されており、いづれも鴨水会側の勝利に終わっています。三回目の今回、鳥城会側は谷馬栄七段(一・中50回)をはじめ精鋭の参加をえて善戦しました(倉光定巳・西高4回)となりました。

経家公の銅像が完成

皆様に募金への協力をお願いした吉川経家公の銅像(写真)が鳥取市東町の県営武道館の敷地内に完成し、経家の命日の十月二十五日に除幕、披露された。

経家は戦国時代の鳥取城督で、豊臣秀吉の兵糧攻めと戦い、部下の命を引換えて自刃した武将。



その遺徳を讃え、イラストレーター毛利彰氏(鳥城)が制作した。建立事業費は約二千万円だった。

皆さんの△会費が鳥城会の活動を支えています。同封の郵便振替で△会費の納入を！ぜひ、ご協力下さい

暗いニュースが多い中、母校は創立百二十周年や野球部の活躍など明るい話題に恵まれた。甲子園への春夏連続出場は昭和八年以来六十年ぶりの快挙だった。ともに精進をものにし、校歌を聞くことができ、感激した」と述べた。

決算・予算案などの議事を満場一致で承認し、河原卯太郎顧問の首頭で乾杯、懇親会に移った。会場では、母校の歴史を紹介した記念番組「輝かしき躍進」(日本海テレビ)のビデオが映され、県東京物産観光センターが県産品を即売した。懇親は二時間を超え、すっかり盛り上がった宴は、例年どおり一・中、西高両校の大合唱で幕を閉じた。次期総会の当番幹事は西高九回が担当する。

期別の活動を拝見

前号に引き続き、卒業年次別の同窓会の動きを紹介します。

談論風発が長寿の秘訣

「鳥城50会」——これは、東京にいる一・中50回卒業生の会合。年に二、三回、七、八人が重頭を忘れさせないようによくやる。

今年一月二十三日の集まりには、会員十三人中、八人が出席した。欠席者は病床にある人、茨城在住、図書館へ出向がそれぞれ一人の他、精密検査で入院中二人だった。

主題は昨年十月に鳥取で開かれた昭和十三年卒業生集会へ、東京から代表で出席した宇田川哲兄の報告であった。入学時二百人の学

懇親会に移った。会場では、母校の歴史を紹介した記念番組「輝かしき躍進」(日本海テレビ)のビデオが映され、県東京物産観光センターが県産品を即売した。懇親は二時間を超え、すっかり盛り上がった宴は、例年どおり一・中、西高両校の大合唱で幕を閉じた。次期総会の当番幹事は西高九回が担当する。

鳥取県農業協同組合連合会(JA鳥取ととり)がこのほど、東京都千代田区神田二丁目のコープビル地下一階に「アグリショップ鳥取」(03・32119・8277)を開いた。20世紀梨、らつきょう、ながいも、和牛など農・畜産物の紹介、販売(産直品除)な

どにに応じてくれるとか。東京駅・八重洲口の鉄道会館(東京丸九階)には、鳥城会の「ととり情報館」(03・32111・8288)がある。ここでも物産観光の紹介、飲食をしよう、ながいも、和牛など農・畜産物の紹介、販売(産直品除)な

うのは楽しいもので、相手がかんげんに会社や世間で偉からうが、顔を合わせれば「俺」「お前」。

また、学校時代の久松山下で、胸を魚がし声も掛けられなかった女の子、男の子であろうが、平気で口をきく。やっぱり同窓会は開かなくては意味が無い。てな訳で、われらが西高九回生関東地区同窓会、清水紀代志君(鳥城会副会長の一人)の面倒見の良さもあって、ミニ同窓会も含め年に何度か顔合わせをしている。うちのカミさんなんざ「又ですか」と、驚いたり呆れたりだ。

関東で大きく会を開催する時には、関西からも何名かは参加してくれる。勿論、三角 幸子(西15回)

友も、いま生きているのは八十九人。全体集会は五年ぶりであって、「君の名は？」と問いかける一幕もあったとか。

卒業後、海軍に行っていた人は、南方戦跡訪問の話を。橋作りの名人だった「橋さん」は、暇をみては親戚に凝り、批評家も驚くくらいな解説ぶり。「本さん」は、出版社にいた時の鋭い感覚で、現在の情報誌の論評。「車さん」は、不況下の経済社会論。「医さん」は、長生きのための健康相談。この健康相談のお陰で、毎回八人前後の出席率を保っているとの自負も。

この集まりでは、言いた



二にも交流

一にも交流

何といっても同窓生と会

△発行所 鳥城会事務局 03・3442・2521

△発行責任者 中野 純(副会長)

△編集委員会 川口 義男(58回) 横山 豊(61回) 林田 達郎(西5回) 三浦 三郎(事務局局長) 三角 幸子(西15回)

編集後記

なんとかが第7号を発行することができました。ご協力に感謝いたします。一日も早く、きれいな活版刷りの会報を、と考えています(中野記)